



たて115.8cm×よこ78.5cm

# 一針一針に 思いを込めて

いとろ せつこ  
**伊藤 節子さん(野市町)**

## パッチワークとの出会い

女子校時代に「家庭コース」で被服 仕立て、手芸などの裁縫の基礎を学び、卒業後は南国市内の機械メーカーに勤務。退職した55歳のころ、雑誌に掲載されていた「パッチワークキルト」に出会い、自己流で始められたそうです。

パッチワークは、手先が器用なうえに裁縫技術が身に付いている伊藤さんにとって、出合うべくして出合った、生涯にわたる趣味といえます。

## 魅力溢れる作品づくり

生地選びもまた楽しみのひとつで、「旅先でお土産の買物物の時、友人たちはお菓子売り場へ行くけど、私は真っ先に手芸や工芸品売り場へ向かいます！」と笑顔で話されました。

お気に入りには、土佐紬や紘、男性用の和服生地、浴衣や手拭いなど

三角や四角形などの小さな布を手縫いでつなぎ合わせて作るパッチワークキルト。生地の質や色柄を考えながら配置し独特の作品作りをされている野市町の伊藤節子さん(81)。平成28年10月に長崎県で開催された「ねんりんピック」の工芸の部に高知県代表として選ばれ、出品した作品が見事「長崎県知事賞」に輝きました。

伊藤さんにパッチワークの魅力と作品作りについてお話を伺いました。

担当/広報編集委員 久保きみ

どシックで落ち着いた色柄のもの。用途を考えずに作り始め、つないでつないで2年がかりでベッドカバーができた。バッグを持って買物に出かけると、近くでバッグを見ようと人がそばに寄ってきたりするなど、魅力溢れる作品を次々と生み出しています。

## 栄誉ある受賞

72歳の時、初めて「オールパワーカー文化展」に出品し、翌年の2回目の出品では「特選」を受賞。1度だけ休んだ年があるものの、毎年出品されています。

そして、平成27年に出品された「秋」(右上写真)という作品が「特選」を受賞し、高知県代表として平成28年秋に開催された、ねんりんピック長崎大会の工芸の部へ出品されました。

高知県からは、日本画や洋画など6部門に合計12作品が出品され、伊藤さんの作品は「長崎県知



受賞記念の盾を持つ伊藤節子さん

事賞」受賞という素晴らしい栄誉に輝きました。

「家族の思い出深い浴衣の残り布、土佐紬などを構図に苦勞しながら、1年がかりでできた作品です。受賞の知らせに驚きました」と大作を見せてくださいました。審査評に、「洗練された技術をつかがわせ、配色も良く秋の風情を感じさせる作品とあるように、細かい針の運びは等間隔で、柄の一方向にだけステッチを入れることで陰影をつけるなど、その細やかな技に見入ってしまいました。

## 友人のすすめで

現在は、中ノ村の公民館で開いているパッチワーク教室で11人の生徒さんたちに囲まれ、作品作りを楽しまれています。

今後は、これまでの作品を集めた個展を開き「皆さんに作品を見ていただき、パッチワークの魅力を伝えたいですね」と話されました。優れた技術と感覚で、小さな布が大きな温もりになる世界を感じてもらえる個展の開催が楽しみにになりました。



**ふるさと納税**  
昨年(平成29年)は期間限定5千円プランなど、特色ある企画をお届けしていきたくと思ひます。引き続き、ご紹介など協力をお願いします。

ふるさと納税サイト  
ふるさとチョイス  
クレジット決済もできます。  
http://www.furusato-tax.jp/

「広報紙」はアプリ名称が「マチイロ」になりました。

「広報紙」はアプリ名称が「マチイロ」になりました。

「広報紙」はアプリ名称が「マチイロ」になりました。

「広報紙」はアプリ名称が「マチイロ」になりました。